

関西支部 LMAG 第 7 回現地技術講演会記録

2015/9/24

講演会の概要

http://www.ieee-jp.org/section/kansai/activity/meeting_089.html を参照。

場所

国立研究開発法人 理化学研究所 播磨 放射光科学総合研究センター

〒679-5148 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

phone: 0791-58-2800

<http://harima.riken.jp/>

参加者

16 名（うち IEEE 会員・LMAG 8 名／LMAG 以外 4 名）

講演者

1. 吾郷 日出夫 氏（理化学研究所 放射光科学総合研究センター）
「SPring-8 の成果より、創薬基盤技術としての放射光タンパク質結晶構造解析」
2. 登野 健介 氏（理化学研究所 高輝度光科学研究センター）
「SACLA の成果と展望」

講演概要

1. SPring-8 は、世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設である。1997 年から供用が開始された SPring-8 では、数多くの研究成果が生まれ、現在も 47 のビームラインを用いて種々の研究が行われている。それらの中から、生物医学系の成果の一例として、生命系放射光利用システム開発ユニットから、創薬基盤技術としての放射光タンパク質結晶構造解析について研究成果とその手法について講演いただいた。

2. SACLA は、原子の世界を詳細に映し出す X 線自由電子レーザー施設である。2011 年には 5 年計画で開発を続けてきた国家基幹技術の一つ、X 線自由電子レーザー（XFEL）施設「SACLA（さくら）」が完成し、世界最短波長の X 線レーザーを発生する施設として 2012 年 3 月より供用を開始している。世界一小さいものが見える X 線レーザー施設 SACLA が、医療や産業の新しい可能性を切り拓く施設としてめざす研究の方向性について話していただいた。

見学

まず最初に、SACLA 施設を2階からガラス越しに見学した。数多くの日本企業の英知と技術の結集であることが、掲示パネルからも理解できた。ロビーにて集合記念写真を撮影の後、Spring-8 施設に入り、円周の一部を見学しながら歩き、その大きさを実感した。

写真

	
Spring-8 の成果を話される吾郷日出夫氏	SACLA の成果と展望を話される登野健介氏
	
Spring-8 の設備	SACLA の設備
	
ロビーにて集合写真	

以上